

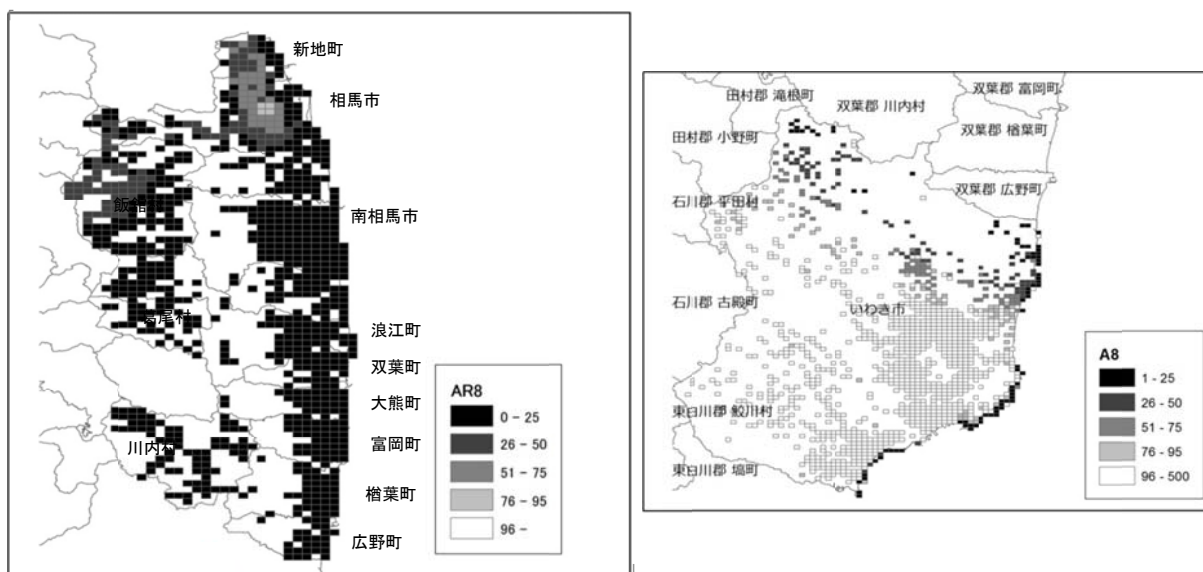
福島県浜通り地方における経済活動および雇用の空間的变化 —不況と震災の影響シミュレーション—

米本 清・菅野玲 (福島工業高等専門学校)

福島県浜通り地方（いわき地域・相双地域）は近年、少子高齢化・不況の影響を大きく受け、人口の減少が進んでいる。筆者らはこうした傾向を踏まえ、将来の経済動向に応じた被雇用者数の空間的变化に関わるシミュレーション分析を行って来たところであるが、先日の東日本大震災・福島第一原子力発電所事故を受け、これらに関わる要素を加えた分析を行い、震災以前の分析結果と共に発表するものである。

分析は産業連関分析と空間的分析の2部に分かれる。産業連関分析では主として福島県が作成した「福島県生活圏別産業連関表」を用い、不況または震災に対応する最終需要を設定した上、生産誘発額を求めた。震災に関わる分析においては、交易係数や移輸入係数の変更も行った。空間的分析では地域メッシュ統計を利用して事業所と被雇用者の立地に関わる推定を行った上、産業連関分析の結果を代入し、被雇用者の分布変化をシミュレートした。なお、不況に関わる分析はいわき地域のみを対象としたが、震災に関わる分析ではいわき地域・相双地域の両地域を含む2地域産業連関分析・空間的分析を行った。

不況に関わる分析からは、いわき市平地区や沿岸部・各工業団地周辺の人口減が特徴付けられた。また、震災・原発事故に関わる分析からは、元来、復興需要のため市街地を中心に生産や人口の増加が見込まれるべきところ、原発事故の影響により相双地域の多くの地区において生産や人口が大幅に減少し、またいわき地域でも北部を中心に衰退がおこる可能性があることが示された。



複合型設定による被雇用者数の変化後割合(%) 左:相双地域 右:いわき地域